



中川京貴

沖縄県議会議員 (自由民主党)



平成27年3月3日 定例会 一般質問



早春の候、皆様におかれましては、益々ご健勝のことと心よりお慶び申し上げます。
日頃より、中川京貴の議会活動にご指導ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
この度、議会内外の活動状況「第13号議会活動ニュース」を作成致しましたので、ご報告申し上げます。
沖縄県は平成二十七年一般会計予算案を七四六五億円と決定し、県議会二月定例会に提案、審議することになりました。
国の経済対策を含む補正予算案などを盛り込んだ全八四議案。(内訳は、予算案三五件、条例案三三件、議決案十四件、同意案二件)
☆沖縄県職員・学校職員の定数を改訂する条例。
☆県警の定員を二五九四人から二六五七人にする職員定員改正条例。
☆沖縄県石油価格調整税条例。
☆平成二八年度、開校予定の県立球陽中学校と開邦中学校を設置するための一部改正条例など。

平成二十七年 当初予算案
《土木建築部》沖縄都市モノレールを浦添市まで延長する整備事業費、約一二五億一千万円。那覇港における人流・物流拠点港湾整備事業、約九億一千四百万円。
《教育委員会》六年間の計画的・継続的な教育指導で国内外の難関大学進学者の増加を目指すため、球陽高校(沖縄市)・開邦高校(南風原町)平成二十八年四月から中高一貫校にする整備事業新規に約一億五千万円。公立学校施設整備事業約四七億六千五百万円。
《文化観光スポーツ部》二万人収容の大規模な会議や催しを開催できる大型MICE(マイス)施設の調査費として前年比約三倍増の約九千万円を計上。沖縄空手会館建設事業、約十九億二千万円。
《商工労働部》国際物流拠点産業集積推進事業、約一億二千八百万円を新規計上。
《農林水産部》鮮度を保った流通を促すためのブランド確立事業、約三千九百万円。漁業の若年就業者を増やすための事業、約二千九百万円を計上した。

《子ども生活福祉部》県と市町村が2分の1ずつ拠出して患者の医療費自己負担分を無料にする3歳以下から就学前の子どもまで広げて助成に約十二億七千九百万円。保育対策総合支援事業として新規、約二億一千万円。
《環境部》災害に強い、低炭素地域づくりを進める再生可能エネルギーギー等、約十四億円。米軍施設に起因する環境問題の解決のための対策事業費は継続、約三千八百万円。
《企画部》沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業、約二億二千九百万円。
《総務部》琉球政府文書デジタル・アーカイブズ推進事業、約一億四千四百万円等。
県民が主役・県民と共に語り・県民と共に創っていく政治、感謝の気持ちを行動で示し、結果が残せる政治を理念に、県経済の発展・教育・医療・福祉の向上に誠心誠意全力で取り組んで参ります。
どうぞこれからも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い致します。

記者のメモ

うめ～ヤギ食べられる



〇…ヤギの脳がスポンジ状に変化するTSEの検査を徹底しようとする厚生労働省の動きを歓迎する中川京貴議員(自民、中頭郡区)。
昨年からの牛のBSE検査が緩和される一方で「ヤギはTSE発症例がほとんどないにもかかわらず検査が義務生産者の負担が大きい」と指摘し続け、県が厚労省に緩和を要請したことが検査徹底につながるとしている。県議会でもヤギに関する質問を取り上げてきた自称「ヤギのスペシャリスト」だけに制度改善の兆しを週一回のヤギ料理の味も格別だ?

体育会系の助言



記者席

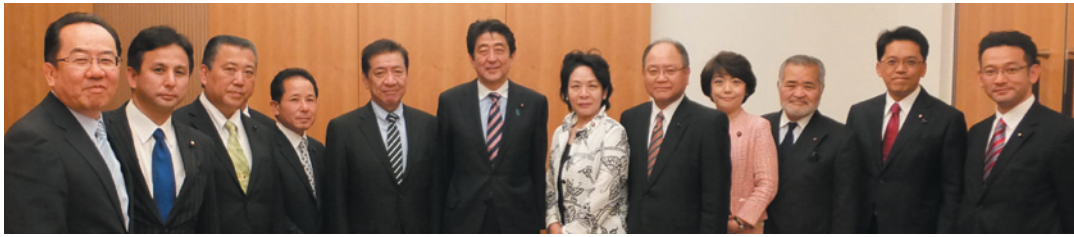
〇…県立開邦高校で中高一貫教育の導入が検討されていることについて、中川京貴県議(自民)は「球陽高校でも同時に進めてもらいたい」と要望する。「沖縄から難関大学に進学する生徒数は九州の9分の1。進学したい子どもの選択肢を広げるためにも、小さいころからの積み上げが大事だ」。自身は小学生から柔道、レスリングに没頭したスポーツエリート。「高校生から野球を始めた人が甲子園で優勝するのは不可能だ」と体育会系の視点で力説していた。

腕っ節の強さ



記者席

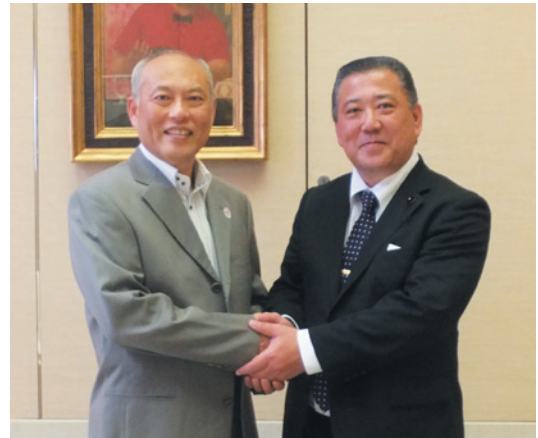
〇…中頭郡区選出の議員として、秋の全島闘牛大会に来賓出席した中川京貴県議(自民)。開会セレモニーの直前、体調を崩してお年寄りが動けなくなった。「早く救急車を呼んだほうがいい」などと周囲に指示を送り、「オジー、大丈夫だからね」とお年寄りに声を掛け、一人でおぶって会場の外へ運んだ。その後は平然と開会式に参加。昔レスリングで鍛えた持ち前の腕っ節をいかに発揮し、観客らの感心を誘っていた。



▲安倍総理総裁に対し、21世紀ビジョンを着実に前進させ、基地の整理縮小と騒音対策・米軍の事件事故と県民の過重な基地負担軽減のため、目に見えるかたちでの取り組みを要請。
(西銘衆議院議員・遠山衆議院議員・中川京貴・照屋県議・桑江沖縄市長・安倍総理・比嘉衆議院議員・翁長県議・島尻参議院議員・浜比嘉沖縄市議・宮崎衆議院議員・国場衆議院議員)



▲菅官房長官に対し、日米地位協定の改定と嘉手納以南の米軍基地の整理縮小と普天間飛行場の5年以内の返還、防音工事が認可外保育施設すべてに対応できるよう要請。また平成27年3月に廃止される見込みの軽油引取税の課税免除措置延長と恒久化を図るよう要請。



▲舩添都知事に対し、東京五輪への空手道の競技種目入り、開会式で琉球舞踊・古典音楽・エイサー・空手演武などを盛り込んでほしいと要請。

記者のメモ

五輪に空手道 突き進む



〇…県議会自民会派のメンバーと上京し、関係者に東京五輪への空手道の競技種目入りを要請した中川京貴県議(自民、中頭郡区)。
舩添要一東京都知事からは開会式での演武披露の提案を含め「積極的に取り組みたい」と好感触を得たという。個人的に「パラリンピックを先行開催したほうがより多くの関心が集まる」と提案。すでにスケジュールが決まっているため、困難との反応だったが「2020年は沖縄からパラリンピック応援のツアーを企画し盛り上げる」と応援団長を宣言。



▲石破幹事長と協参議院幹事長に対し、東日本大震災に係る応急仮設住宅の供与期間の延長と運用緩和を要請。

思い伝わった?



記者席

〇…中川京貴県議(自民)は、県内に避難した東日本大震災被災者への応急仮設住宅提供が、県内で転居した場合に打ち切られることについて、「住みやすい環境を求める権利は誰にでもある」と制度の不備を指摘する。被災者に寄り添いたいと、東京で党の石破茂幹事長と食事会を開いた際には制度の改善を要請した。「なかなか会える機会はないので思い切って訴えた」とか。「そうですね」と聞き役に徹していたという石破幹事長へ思いは伝わった?



▲大田国土交通大臣に対し、伊是名村・伊平屋村の架橋建設と那覇空港及び公共事業の県内企業優先発注を要請。

委員長に未練



記者席

〇…県議会土木環境委員会の視察で伊平屋、伊是名島を訪問した中川京貴氏(自民)。伊平屋、伊是名は一括交付金を活用したフェリーの運航が始まり、来年度からは伊平屋空港の調査事業が動き出す。父の故郷、伊是名島の発展に感慨を深め「残るのは伊平屋と伊是名をつなぐ架橋だ。島の人は橋を架けるのに『命懸け』だと言っていたので、それに応えたい」と意気込む。6月定例会で委員長を降りたが「できれば委員長の時に来たかった」と未練もちらり。

記者のメモ



〇…白線が消えつつある横断歩道を問題視する中川京貴県議(自民、中頭郡区)。「県内で約五千力所ある横断歩道は9年に一度、優先度の高い場所から補修する」と来年度予算に注目する。

記者のメモ



〇…沖縄の人材育成のため、中高教育の早期導入を訴える中川京貴県議(自民、中頭郡区)。特に県内の県立進学校「4区」といわれる開邦、那覇国際、琉球、向陽で中部の球陽で、導入を最優先してほしいのが本音?

刻も早く導入すべきだと熱弁する。優秀な教師と整った学習環境で6年間(7年制)学んでもいい。東大をはじめとする難関大学への進学数を増やすことで「県出身の中央官庁を輩出するなど、国のかじ取りを担うウチナンチュを増やしたい」と意気込む。特に地元、中部の球陽で、導入を最優先してほしいのが本音?

記者のメモ



〇…県議会12月定例会の一般質問で初代公選県知事の屋良朝苗氏の顕彰事業への県の協力を求めた中川京貴県議(自民、中頭郡区)。選挙区内の読谷村出身で、地元愛をアピール。

像建立などを地元期成会が計画、寄付を募っている。読谷村は一括交付金の活用を検討したが、県の調整が付かなかった。「一般質問で『本土復帰を実現し、豊かな沖縄を確立した偉大な政治家』と強調し普通交付税の傾斜配分活用を提案。村出身で戦前の行政主席、比嘉秀平氏の銅像の必要性も訴えた」と意気込む。

平成26年台風8号の被害について

問 嘉手納町では同町を流れる比謝川が氾濫した影響で、町内に通じる国道58号と県道74号線が冠水し、全面通行止めになった。一時、町内へ車両での出入りができない状態になり孤立してしまつたが、今後の比謝川氾濫、国道、県道の対策について。



記者のメモ

道路冠水 侮るなかれ

「台風8号の冠水被害を振り返り、災害対策の重要性をあらためて感じた中川京貴議員（自民、中頭地区）。地元嘉手納町は国道58号と県道74号が冠水し、町外からアクセスできない。陸の孤島に。小学校では生徒が登校しても町外から出勤する先生が学校にたどり着けず、混乱した。また問題視。冠水の理由は比謝川の氾濫とされているが、実は1年前から比謝川の浚渫で氾濫を防ぐよう県議会が主張。『災害後に想定外とならないよう備えよう』と訴える。」

平成26年9月25日 琉球新報社 提供

答 比謝川の河口部左岸は、被害拡大の防止のため、袋型根固め材による保護工を実施し、平成26年8月に応急対策が完了。地元からの要望で、屋良城跡公園付近は浚渫実施。比謝橋付近は氾濫の実績もなく、河川の浚渫を行っておりませんでしたが、今回の氾濫を受けて、必要な箇所は適宜浚渫を行う。



▲嘉手納漁港周辺 平成26年7月



▲台風8号被害 比謝橋周辺（大湾）

米軍基地問題について

問 普天間飛行場・嘉手納飛行場から発生する騒音問題や基地被害について、常駐機をはじめ、外来機の訓練による深夜早朝の騒音被害があり、特に海軍駐機場及び大型駐機場から発生する航空機騒音、航空機排気ガスを伴い、町民は苦しんでいる。県としても騒音対策、騒音による健康への影響に関する調査、基地周辺の大気汚染物質及び悪臭物質調査について取り組んで頂きたい。

答 米軍施設環境対策事業は、県内の米軍施設の環境情報や、外国及び米本国における米軍基地の環境保全の仕組み等の情報の収集・分析を行う。



嘉手納基地悪臭 県が実態調査へ

米空軍嘉手納基地周辺で住民らが悪臭による被害を訴えていることから、県環境部の當間秀史部長は3日、「2015年度にも環境省など協議の上で悪臭実態調査を始め、規制地域の指定や基準設定に取り組み」と述べた。県議会で中川京貴氏（自民）の質問に答えた。

嘉手納基地周辺の悪臭実態調査は環境省が2011年度と13年度に実施したが、米軍航空機由来なのか往來する車両からの排出ガスなのか、原因物質が特定できていない。環境保全課担当者によると、15年度は悪臭防止法に基づく悪臭物質規制地域や基準設置の見直しの年に当たる。これまでの調査結果を踏まえた上で環境省や嘉手納町と調査実施に向けて協議していく。

平成27年3月4日 琉球新報社 提供



*「ゾーン30」とは、抜け道として利用されやすい通学路などの生活道路を最高速度30キロに制限し、路側帯を新設したりカラー舗装したりして運転者に伝える取り組みのこと。

問 国体道路と県道23号線の青信号の時間延長と町道47号線に「ゾーン30」の指定ができないか。

答 県道23号線の青信号時間の延長につきましては、周辺道路の交通量も調査の上、適切な信号時間の配分を検討したい。



交通安全対策について

問 国体道路ドラッグイレブン前十字路付近の桑江中央線と交差する道路、町道上勢頭47号線は、普通乗用車がすれ違うのがやっとの道幅で危険な状態である。スピードが出せない対策はできないか。

答 北谷町は、注意看板を設置したり、ハンブ等の設置による通過交通の抑制のための対策を検討している。県としても、町と協力し地元の要望に沿うよう問題解決に取り組みたい。

中高一貫教育について

問 北谷町白比川について、仲井眞知事が現場に行き50年も苦しんでいる地域住民の切実なる声を聞いた。地元議員の要請を受け日米両政府に要請した。また、宮崎衆議院議員が小野寺防衛大臣に調査を依頼し、予算化したものであります。河川の拡幅工事に伴い、北谷町と地域住民の意見を聞き工事を進めて頂きたい。（提案）

答 平成26年9月には、沖縄防衛局及び米軍と現地協定を締結し、白比川の事業区間1キロメートルの内、下流部の120mの整備に着手している。平成26年12月末までに、ボーリング調査、文化財調査、フエンスの移設工事を完了しており、河川の拡幅については、平成27年度に左岸、平成28年度には右岸の護岸工事を行う予定。北谷町と協議を行っている。県としては、協議が整い次第、共同での兼用工作物の手続をおこなう。

球陽に中学部検討

教育庁
3年後の開校を目指す

県教育庁が、県立球陽高校（沖縄市）に中学部の設置を検討していることが7日、分かった。開校までに3年程度を見込んでいます。



球陽中高一貫校基本計画を決定

県教育委員会が24日、球陽高校（沖縄市）に中学校を併設して県立の中高一貫校とする基本計画を決めた。2016年度から中学1年生の受け入れを始め、難関大学進学に対応できる計画的・継続的な教育指導を目指す。中学校は1学年1学級で、学級定員は40人。通学区は県全域。中学入試については別途定める。中学から高校への内部進学の場合は選抜試験はない。

県教育委員会

写真で見る調査活動報告



▲読谷村 都屋沖へ防衛局の補助で 新設された定置網視察。



▲事故多発 読谷村中央残波線・早急な信号機設置を要請し、3機設置が実現。



▲沖縄の基地負担軽減の為に、群馬県 榛東村へ オスプレイの訓練移転要請と意見交換。



▲宮古島、悲願の伊良部大橋開通（式典）（土木環境委員会・下地市長 平成27年1月）

屋良朝苗顕彰事業について

問 球陽高校への中学部併設について、教育は最大の振興策。島諸県である沖縄は自主財源も乏しく産業も企業も厳しい状況の中で、将来を担う子供たちが教育をすることによって、沖縄振興または、21世紀ビジョンを引き継いでいく。中高一貫教育を実現し難関大学（東大・京大等）に進学したい子供たちにチャンスを与えて頂きたい。

答 高い目標を掲げ、難関国立大学等への進学を目指す生徒のニーズに応える教育環境を整えることは、大変重要。難関国立大学等への進学を目指す生徒への支援、地域のニーズ等を総合的に勘案するなど検討。



離島体験交流促進事業について

平成二十二年度からスタートした離島体験交流促進事業は、（三校予算二千四百七十六万円（六三人）が派遣された。中川京貴のこれまでの一般質問で、平成十七年度は、四十七校（三四三三人）約一億九千二百七十万円へ予算が拡充された。またこれまで実施されていない離島の子供達が本島で学ことも実現した。（約3離島四十五名 予算 一千五百万円予定）



平成27年度 沖縄離島体験交流促進事業 派遣計画予定					
町村	学校名	クラス	人数	体験先	日程
嘉手納町	屋良小学校	2	49	西表島	11/11~13
読谷村	喜名小学校	3	81	伊平屋島	10/28~30
	古堅南小学校	3	104	宮古島	11/18~20
	渡慶次小学校	2	81	座間味島	11/4~6
北谷町	北谷第二小学校	3	84	伊平屋島	11/18~20

道路行政について

問 西原町棚原付近の県道29号線拡幅工事の進捗状況とこれまでの予算及び完成予定について

答 県道29号線の翁長・上原区間については、これまで約41億円を投入しており、平成25年度末約80%の進捗。完成供用は平成29年度を予定しております。



問 北中城村安谷屋の北中城インターチェンジ付近の県道29号線は、交通渋滞が発生し、地域住民から交通渋滞解消のため道路拡幅工事の要望があるが、整備等の計画はあるのか。

答 県道29号線那覇北中城線の北中城インターチェンジとの交差点から、第一安谷屋交差点までの区間については、対策が必要であると認識しております。昨年度から渋滞状況の調査・分析を行っている、今年度中の策定を目指していきたい。



中高一貫教育について

球陽に中学部検討
教育庁

3年後の開校を目指す

県教育庁が、県立球陽高校(沖縄市)に中学部の設置を検討していることが7日、分かった。開校までに3年程度を見込んで、中川貴氏(自民)に中頭地区の高校への中学部併設について問われた諸見里明教育長は「地域のニーズを勘案するなど検討したい」と答弁。答弁後、本紙の取材に「球陽高校への中学部設置を前向きに検討したい」と答えた。球陽高校側からも中学部設置の要望があったという。中学部は1〜2クラスを想定。校舎や校区など詳細は今後検討する。現在、県内にある併設型の公立中高一貫教育校は、県立与勝緑が丘中学校・与勝高校(つるま市)の1校。県教育庁は、県立開邦高校(南風原町)への中学部設置も3年後をめどに検討しており、球陽高校と同時に進める予定。

平成26年7月8日
沖縄タイムス社提供

県経済の将来展望について

問 二万人収容の大規模な会議や催しを開催できる大型MICE誘致は、経済効果が大きいことから全国的に誘致計画が過熱しており、アジア諸国でも誘致取り組みを強めている。県は立地場所を含め取り組みを加速する中、早くも西原町、与那原町が議会・商工会・町を挙げて全力で取り組んでいるが、県の今後のタイムスケジュール、または県が計画している施設の機能や運営等の基本的な考え方について伺う。

答 2020年度の供用開始に向けて施設整備の検討。今年の五月末迄には、場所を決定する。MICEの建設費については、約400億円。

施設の概要としては、展示会、コンサート等多様なイベントに対応できる2万平米程度の展示場他、多目的ホール20室から30室の中小会議室などの機能を持った複合施設を想定。

要請 MICE施設の選定については、中部の活性化のために西原町と与那原町のマリントウン地区に決めて頂きたい。



▲土木環境委員長として中城湾港マリントウン整備事業(与那原マリーナ)調査。



中城湾港マリントウン(西原町・与那原町)

屋良朝苗顕彰事業について

問 読谷村出身で共に教育者。本土復帰を実現、恒久平和で豊かな沖縄県を確立した屋良朝苗氏。琉球政府の政治家として行政主席を務めた比嘉秀平氏。両氏の功績をたたえ、歴史の教えをしつかり守り後世に伝え、県内はもちろん県外の皆様にも周知させる為に県からの支援はできないか。

答 屋良朝苗氏は復帰後初代の沖縄県知事として沖縄振興に貢献され、県民から尊敬されております。屋良朝苗顕彰事業は、顕彰事業推進期成会が結成されている。県は、どのような対応が可能か検討したい。



まだまだ!

離島体験交流
促進事業について

平成二十二年度からスタートした離島体験交流促進事業は、三校予算二千四百七十六万円(六三人)が派遣された。中川貴のこれまでの一般質問で、平成二十七年は、四十七校(三四三三人)約一億九千二百七十万円へ予算が拡充された。また、これまで実施されていない離島の子供達が本島で学ことも実現した。(約3離島 四十五名 予算 千五百万円 予定)



OK!

平成27年度 沖縄離島体験交流促進事業 派遣計画予定					
町村	学校名	クラス	人数	体験先	日程
中城村	津覇小学校	2	44	津堅島	11/25~27
	中城小学校	2	48	久米島	10/28~30
西原町	坂田小学校	4	150	伊江島	7/15~17
	西原小学校	3	105	伊是名島	6/24~26

嘉手納基地悪臭 県が実態調査へ

規制地域など指定

米空軍嘉手納基地周辺の悪臭実態調査は環境省が2011年度と13年度に実施したが、米軍航空機由来なのか往來する車両からの排出ガスなのか、原因物質が特定できていない。環境保全課担当によると、15年度は悪臭防止法に基づく悪臭物質規制地域や基準設置の見直しの年に当たる。これまで環境省や嘉手納町と調査実施に向けて協議していく。

米空軍嘉手納基地周辺で住民らが悪臭による被害を訴えていることから、県環境部の當間秀史部長は3日、「2015年度にも環境省などと協議の上で悪臭実態調査を始め、規制地域の指定や基準設定に取り組み」と述べた。県議会で中川貴氏(自民)の質問に答えた。

平成27年3月4日 琉球新報社 提供



まだまだ!

米軍基地問題について

問 普天間飛行場・嘉手納飛行場から発生する騒音問題や基地被害について、常駐機をはじめ、外来機の訓練による深夜・早朝の騒音被害があり、特に海軍駐機場及び大型駐機場から発生する航空機騒音、航空機排気ガスを伴い、町民は苦しんでいる。県としても騒音対策、騒音による健康への影響に関する調査、基地周辺の大気汚染物質及び悪臭物質調査について取り組んで頂きたい。

答 米軍施設環境対策事業は、県内の米軍施設の環境情報や、外国及び米本国における米軍基地の環境保全の仕組み等の情報の収集・分析を行う。



まだまだ!

写真で見る調査活動報告



▲山口県 村岡知事へ MV22オスプレイ日米協同訓練移転と基地負担軽減のご理解とご協力の要請。(自民党派視察)



▲沖縄の基地負担軽減の為に、群馬県 榛東村へ オスプレイの訓練移転要請と意見交換。(自民党派視察)



▲長野県議会 一般質問・陳情実施状況等。(議会運営委員会)



▲宮古島、悲願の伊良部大橋開通(式典)(土木環境委員会・下地市長 平成27年1月)